和歌山県立医科大学附属病院広報誌

# まんだらげ

Vol.39
2017 WINTER

**広報誌「まんだらげ」の名称について**

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲が全身麻酔薬として用いた植物「曼陀羅華（まんだらげ）」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学の校章にも採用されています。

Photo：お燈まつり（新宮市）
毎年2月6日、神倉神社で行われる。

**理念**

私達は安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

**基本方針**

1. 患者さんとの信頼関係を大切にし、安全で心のこもった医療を行います。
2. 高度で先進的な医療の研究をすすめ、その成果を反映した医療を行います。
3. 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
4. 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。

## Contents

新年のごあいさつ
特　集Ⅰ/ 膵臓がん早期診断システム「きのくにプロジェクト」
特　集Ⅱ/ 「日本初!樹状細胞免疫療法の治験」
TOPICS/ がん患者・家族・県民のための公開講座
がん患者サロン「わ」
小児成育医療支援室開設10周年記念講座
「てんかんを知ろう」市民公開講座
診療科紹介/ リハビリテーション科、麻酔科、歯科口腔外科

# 新年のごあいさつ

理事長・学長
岡村 吉隆

## 医療系総合大学として積極的な前進と改革を

新年あけましておめでとうございます。

昨年はリウマチ膠原病センター、患者支援センターの開設など、県の基幹病院にふさわしい医療体制と診療機能のさらなる強化に努めてまいりました。看護師などの医療スタッフも増員し各スタッフの専門性を生かしながら、医師と連携したチーム医療に尽力しております。一方で、職員のワークライフバランスを尊重するため、院内託児施設の保育士数も増員し働きやすい職場環境を整え、技能水準の高い人材の復職支援や離職対策に取り組んでいます。

また、田辺スポーツパークが国内初のパラリンピック陸上競技のナショナルトレーニングセンターに指定され、障がい者スポーツ医科学の分野で豊富な実績を持つ本学が医療支援に携わっております。

さらに、平成33年の薬学部開学に向けて、９月に薬学部設置準備委員会を設置しました。「DPC（包括医療費支払い制度）」や「臨床研修マッチング」など多方面で高評価をいただいている本学ならではの特徴を生かした薬学部にするべく、薬学教育の在り方や運営･施設等設備に関する調査や審議を、有識者を交えて進めております。

地域医療の発展に貢献できる医療系総合大学として、今後もたゆまぬ努力を続けていく所存でございます。

病院長・整形外科教授
吉田 宗人

## 第４期医療情報システムの本稼働と患者サービスの強化

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

今年は１月から第４期医療情報システムが本稼働しています。今回のシステム整備では、医療情報の共有化、医療の標準化を推進することによる医療の質向上、インフォームドコンセントや情報提供の充実などによる患者サービスの向上、薬剤の絶対量･禁忌などのチェックや患者照合の徹底により取り違いを防ぐ医療安全の向上、医学研究･教育支援の充実などを目指しています。

医療現場は女性職員の割合が高い職場です。これまでも、女性が出産後も働きやすい職場の環境づくりに取り組んできました。来年度からは院内保育園の定員を増やすなど、仕事と育児の両立を強化します。また、男性職員への教育も進め、全職員が働きやすく、各々の能力を十分に発揮できるワーク･ライフ･バランスのとれた就労環境の確立を推進します。

平成１１年に紀三井寺へ移転してから今年で１８年目になります。施設も老朽化してきますので、数年にわたる大規模な改修工事に着手します。外来受診や入院生活の環境を清潔で快適にすることは患者さんにとって非常に重要なことであると考えています。今年はまず、一部のトイレを改修します。改修に伴い患者の皆様にご不便をかけることもあるかもしれません。どうぞご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 県民の皆様に良質な医療をお届けします

副院長・腎臓内科教授

### 重松 隆

明けましておめでとうございます。副院長を拝命いたしております腎臓内科の重松隆でございます。病院において医療安全や新薬の開発における治験並びに臨床倫理委員会等を担当いたしております。

大学附属病院として、先端医療や新しい治療の開発実施は重要な使命でございますが、医療に携わるにあたり最も基本的かつ重要なものは安心安全な医療であると思います。その業務を遂行することで、県民の皆様に良質な医療をお届けする任を微力ながら果たして参りたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 医療スタッフと事務職員が一丸となり地域医療に貢献

副院長・リハビリテーション科教授

### 田島 文博

新年のお慶びを申し上げます。

本院は医師、看護師、医療スタッフ、事務職員が一丸となり最新かつ安心安全な医療の提供に日夜勤めています。また、昨年開設した患者支援センターが中心となり、関係部門と連携を取りながら患者さんの入退院を支援しています。

私事ではございますが、これまで国内外の４つの大学病院に勤務してきました。本院に着任したとき、診療レベルの高さと医師、医療スタッフ、そして事務職員の熱意に驚きました。皆様の御支援が高度な医療水準を支え、さらなる向上につながると確信し、新年のご挨拶とさせていただきます。

## 県内の高度急性期治療の中核病院として

副院長・脳神経外科教授

### 中尾 直之

明けましておめでとうございます。

和歌山県立医科大学附属病院では、平成28年4月より従来からの地域連携室と病床管理センターを統合し、『患者支援センター』を開設しました。これにより地域医療機関との連携が以前にも増して効率よく行うことが可能となりました。

和歌山県立医科大学附属病院の最も重要な使命の一つに、高度急性期治療の提供があります。本年も県民の皆様に高度かつ良質な治療を安心して受けていただけるように、そして和歌山県の医療の充実・発展に向けて一層の努力を続けてまいります。

今年も変わらぬご支援を宜しくお願い申し上げます。

## 外来から入院、そして在宅へ地域医療・介護施設との連携を推進

副院長・看護部長

### 角谷 知恵美

謹んで新春のお喜びを申し上げます。

2025年の超高齢社会を迎えるにあたり、市町村が考える地域包括システムが導入されてきました。この動向を受け、大学附属病院は地域連携室と病床管理センターを統合し、外来から入院、そして在宅への連携を推進する「患者支援センター」を４月に設置しました。看護部から８名の看護職員が出向し、スムーズに在宅医療、介護に移行できるように支援してまいりました。

これからも、疾病を抱えても住み慣れた生活の場である自宅で療養し、自分らしい生活が続けられるように、地域における医療、介護施設との連携を推進してまいります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

特集

## 地域医療の連携で、早期発見・早期治療、予後向上を目指す

# 膵臓（すい）がん早期診断システム「きのくにプロジェクト」

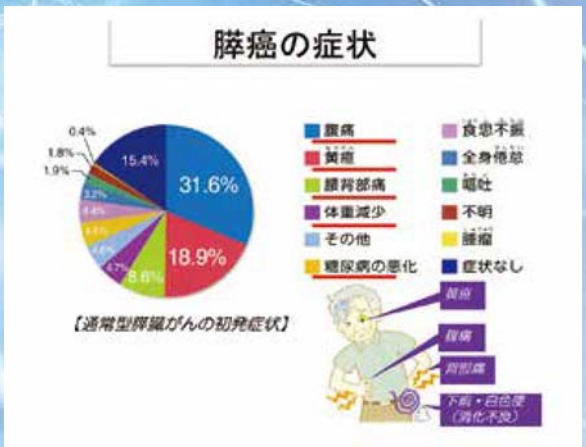
## 見つかったときにはすでに進行している膵臓がん

昭和54年以降、和歌山県は死亡原因の1位が「がん」とされています。国立がん研究センターがん対策情報センターの「がんの75歳未満年齢調整死亡率」（平成26年）によると、全部位の男女合計でワースト9位と、全国の中でも高い死亡率を挙げています。また膵がんの死亡率も同様に高く、国立がん研究センターがん対策情報センターの「膵臓がんの都道府県別年齢調整死亡率」（平成26年）において、和歌山県は男性は6位、女性は3位になっています。

膵臓がんによる県内の死亡者数を減少させるために、消化器内科の北野雅之教授が中心となり、「きのくにプロジェクト」の発足を決定しました。早期発見・早期治療、予後向上を目的に、県内および大阪泉南地域の医師会や病院協会などと連携した地域医療ネットワークの構築の準備を進め、今春からのスタートを目指しています。

「膵臓がんは消化器がんの中で最も予後不良ながんです。特徴的な自覚症状が乏しく、患者さん本人が自ら見つけることは難しいケースがほとんどです。また簡単に早期診断できる画像検査がないために、発見されたときにはすでにがんが進行しているケースが少なくありません。そのためにはかかりつけ医など地域の医療施設と連携し、少しでも疑いのある患者さんを県がん診療連携拠点病院である当院に紹介していただき、専門的な検査を行って、早期発見や早期治療を実現したく思います。」

「きのくにプロジェクト」を立ち上げる
消化器内科 北野雅之教授




膵臓がんの症状(「きのくにプロジェクト」講演資料より)

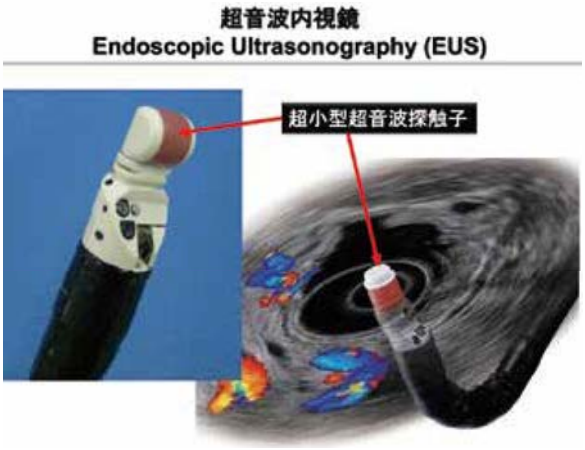
和歌山市医師会での講演

## システムの構築と高水準の医療で、県の膵がん死亡数を減少

県内の医師会など医療関係者を対象とした講演会もすでに数回行われ、北野教授が同プロジェクトの内容や、膵臓がんの危険因子である糖尿病や慢性膵炎、また膵臓がんを疑う症状を解説し、当院で積極的な検査や治療を行えるようなシステムを構築できるよう協力を仰いでいます。

当院の消化器内科は、消化器病専門医13人や内視鏡や超音波の専門医16人などを有し、トップクラスの診療実績があります。また、超音波内視鏡(EUS)による検査を実施しています。EUSによる膵腫瘍の検出率は高く、他の画像診断検査では発見しにくかった腫瘍を小さなうちに見つけることができ、生存率の上昇が期待できます。数々の内視鏡検査の中で、このEUSを用いた検査は難易度が高い上に、専門医師が少ない現状であるため、すでに実績のある当院には全国から診断に困っている膵疾患に対する内視鏡検査が依頼されています。

システムの構築と高水準の医療で、県における膵臓がん治療数を向上させ、死亡者数減少を目指します。さらに、県における県民健康推進活動を国内はもちろん、世界に向けて発信できれば、と考えております。




超音波内視鏡 EUS

EUSで撮影された約1cmの早期膵臓がん

特集

## 膵臓がんに対する画期的な新療法

# 国内初、樹状細胞免疫療法の治験をスタート

## 進行膵臓がんの効果的な治療法として期待

本学外科学第２講座（消化器･内分泌･小児外科）は、がんに対する日本初の細胞療法の治験を2017年から始めることを、昨年12月に行われた記者会見で発表しました。会見には研究チームの中心となる山上裕機教授や、治験製品を提供する製薬会社テラファーマ株式会社の関係者、がん患者団体「市民のためのがんペプチドワクチンの会」の曾田昭一郎代表が出席し、療法の内容や治験の特徴などを説明しました。

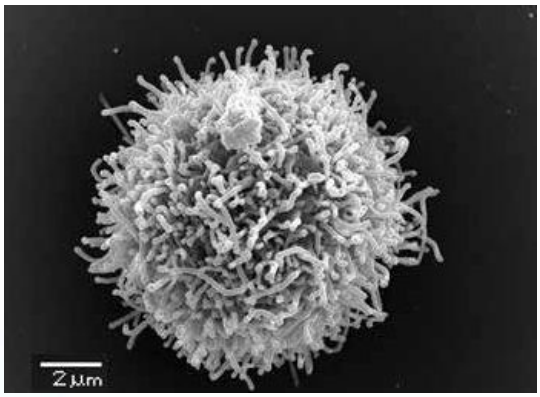
国内における膵臓がんの死亡数は、年間で約31,000人（2014年）となっています。肺がん、胃がん、結腸がんに次いで４番目に多く、過去25年においてがん全体の死亡率が4%減少している中、膵臓がんは1.5倍に増加しています。膵臓がんは膵臓が腹部の奥深くにあることや、自覚症状がほとんどないことから、診断時にはすでに高度進行しているケースが多く、そのため切除が非常に難しく、また予後が極めて不良とされています。しかし、標準療法が不応の進行膵臓がんの治療法はいまだに確立されておらず、より効果的な治療法が待ち望まれています。

外科学第二講座 山上裕機教授

がんの標準療法は、手術や化学療法（抗がん剤）、放射線などの治療が挙げられ、薬剤や放射線ががん細胞に直接作用します。一方、今回の治験で行わる免疫療法は体内の免疫細胞に作用し、がん細胞には免疫細胞が作用するため、副作用が少ないとされます。また、標準治療と併用することで、相乗効果も期待されています。

テラ株式会社の矢崎雄一郎
代表取締役

「市民のためのがんペプチドワクチンの会」の曽田昭一郎代表




樹状細胞

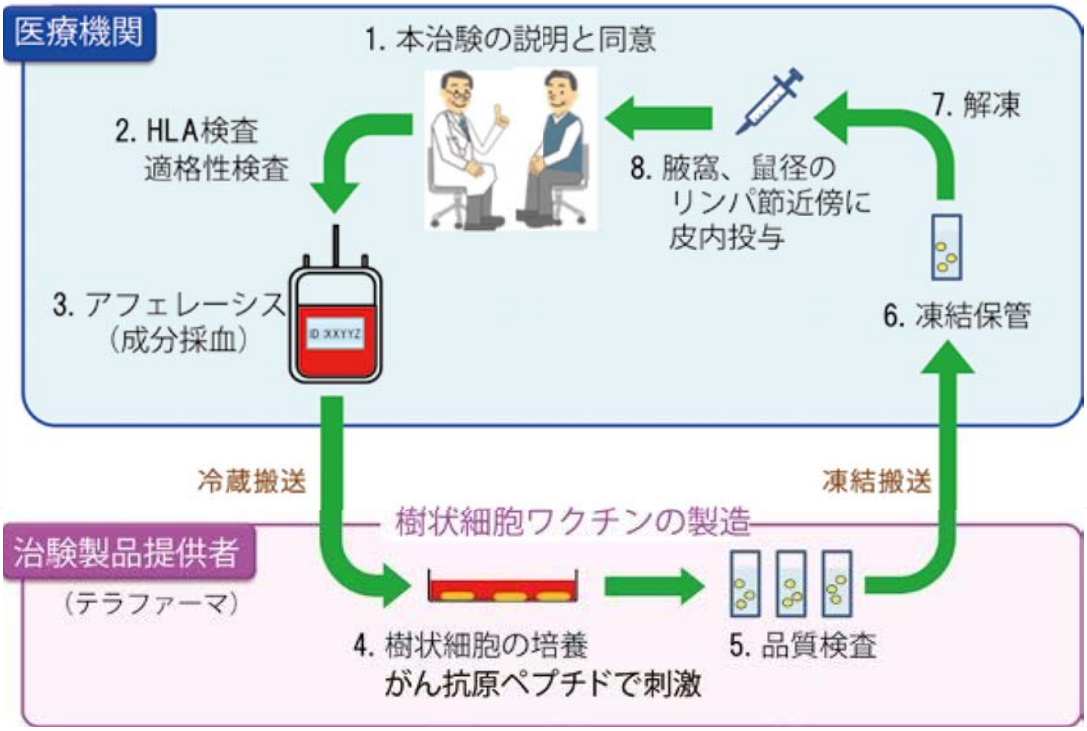
## がん細胞を攻撃する司令官、「樹状細胞」を増やすワクチン療法

今回行われる「標準療法不応の進行膵癌患者を対象とした樹状細胞免疫療法」は、リンパ球にがん細胞を攻撃するように指導する働きを持つ「樹状細胞」に注目したワクチン療法です。患者の血液から樹状細胞の素となる単球と呼ばれる細胞を血液から採り出して培養し、人工的に樹状細胞へ育てます。さらに、がんの目印である「がん抗原（ペプチド）」を取り込ませたワクチンを患者に注射し、体内で樹状細胞を増加させ、効率よくがん細胞を攻撃します。

治験の対象者は抗がん剤が効かない膵臓がん患者185人を対象に全国の経験豊富な病院で行い、早期の再生医療等製品としての承認を目指します。

山上教授は「膵臓がんの進行を止める画期的な療法として、研究を進めて、2022年に治験を終了させて承認を申請し、2023年の保険適用を目指しています。患者さんの経済的な負担を軽減したい。また、標準治療が効かないケースや、膵臓がんだけでなく他のがんにも適用できるよう、効果的な治療法として確立したい。」と話しました。

## 治験の樹状細胞免疫療法の流れ



# TOPICS

## がん患者・家族、県民のための公開講座「乳がんが教えてくれた私らしい生き方」

ファッションショーやファッション誌で活躍し、人気を集める園田マイコさんは、今から8年前39歳の時、左胸に「がん」が見つかりました。その後、乳房温存手術、抗がん剤、放射線、ホルモン剤、分子標的治療薬などの治療を受け病気を乗り越えました。

「自分は病気とは無縁だと思っていただけに、ある日突然、乳がんと宣告されたときは、目の前が真っ暗になり不安に襲われ死というものを初めて意識しました。そんな私を支えてくれたのは家族であり、友であり、同じ乳がんで闘っていた患者さんたちでした。人はひとりでは生きていけない。時には甘えることも大切なんだ。」という園田さん。現在は自らの体験を生かして、乳がん体験者コーディネーターの認定資格を取得しているほか、NPO法人「キャンサーリボンズ」の理事も務めています。

当院では、1月29日(日)午後2時から園田さんをゲストに迎えて「がん患者・家族、県民のための公開講座」を下記会場において開催します。

**■日時**／1月29日(日)14:00～16:00
※受付開始13:30～
**■入場無料** ※申込必要(定員200名になり次第締切)
**■会場**／和歌山県立図書館メディア・アート・ホール
和歌山市西高松1-7-38
※駐車場は限りがありますので公共交通機関をご利用ください
**■申し込み・問い合わせ**
和歌山県立医科大学附属病院
患者支援センター
TEL：073-441-0778

## がん患者サロン「わ」

皆さんの話を聞いているだけでも楽しいし、安心できますよ。

みんなが自由に出入りできて、ホッとできる場所です。

医療者もぜひ参加してください。楽しいサロンです。

たのしい仲間ができますように(*^_^*)

いつも笑いが絶えないサロンです。元気もらえます。

おいしいお茶と楽しいおしゃべり、サロンのドアをノックしてみて！

同じ思いを共有できる仲間に会いにきませんか。膵臓がんの人、話にきませんか？

当院では、がん患者さんが交流する場として、がん患者サロン「わ」を開催しています。患者さん同士で悩みや思いを話すことで、落ち込んでいた気持ちも前向きに変わっていきます。お茶でも飲みながら、ゆっくりとお話ししませんか。研修を受けたピアサポーターがお話を伺います。

事前の申し込みは不要です。また、途中での入退室も可能となっていますので、お気軽にお越しください。

**■日　時**／毎月第3金曜日
14～15時
**■場　所**／中央棟2階 相談室
(スターバックス前)
**■連絡先**／患者支援センター・
がん相談支援センター
TEL：073-441-0778(直通)

# 小児成育医療支援室開設10周年記念・市民公開講座

小児科 鈴木啓之教授

小児成育医療支援学講座 南弘一講師

本学小児成育医療支援室の開設10周年を記念した市民公開講座が、11月12日(土)に本学臨床講堂で開催され、小児医療や成育に関心を持つ市民や関係者が来場しました。

小児成育医療支援室は、和歌山市、岩出市、紀の川市の受託講座として平成18年に開設。成育医療とは、年齢が限られていた小児医療を人生のサイクルの一部と捉え、年齢枠を超えて展開する新しい医療体制です。同支援室では、子どもの心とからだの発育や発達から、子育ての悩み、学校での問題まで、多岐にわたる相談を無料で受け付けています。相談内容により、小児科医師、臨床心理士、ケースワーカー、看護師などが応対し、医療的なケアが必要と判断した場合は、適切に小児外来に紹介します。

市民公開講座では、小児成育医療支援学講座の南弘一講師が、支援室の10年の歩みを報告。また、和歌山市健康局の永井尚子保健所長が同市の子どもの発達支援体制について、さらに本学の小児科や保健看護学部教授が、発達障害、拒食症、虐待などの県内の現状や対策、治療法などについて講義しました。小児科の鈴木啓之教授は、「今の子どもはさまざまな悩みを抱えています。多機関が連携してその悩みを共有し、切れ目のない支援をしていければ」と、述べました。

会場風景

# 「てんかんを知ろう」市民公開講座開催

～健やかな成長、穏やかな生活に向けて～をテーマに、昨年11月6日(日)午後2時から和歌山県民文化会館大会議室で、市民公開講座「てんかんを知ろう」が開催されました。

講演は、「こどものてんかんについて」(小児科田村彰助教)、「おとなのてんかんについて」(脳神経外科西林宏起講師)、「てんかん患者の生活に役立つ情報」(神経精神科辻富基美講師)。

なかでも「てんかん患者の生活に役立つ情報」では、辻講師が、てんかん患者さんが運転免許を取得・更新する条件や結婚・出産について詳しく解説しました。さらにてんかん患者さんの医療費をサポートする自立支援医療制度や生活費をサポートする障害年金、くらしと社会をサポートする精神障害者保健福祉手帳の利用についてなど、主な福祉制度が紹介されました。

「てんかんについて正しく理解し、てんかんのある人をサポートする啓蒙活動『パープルディ活動』の輪が、世界中で広がっています。紫色のものを身に付けることで、てんかんを持つ人を応援する意思を表明するというものです。てんかんで悩む人をひとりにしないで、てんかんのある人の自立をサポートしましょう。」と辻講師は語ります。現在、病気のことや経済的な悩み、生活上の問題、福祉制度の手続きなども含めて、相談専用ダイヤルにお問い合わせください。てんかんに理解のある相談員が相談に応じます。

神経精神科 辻富基美講師

会場風景

☎03-3232-3811
日本てんかん協会相談専用ダイヤル
※月水金(平日のみ)13:15～17:00

# 診療科紹介

リハビリテーション科

## 超早期からのリハビリテーションで心身を改善

教授：田島文博

すべての患者さんにとって、不必要な安静･臥床は「麻薬」のようなもので、気持ちがよく楽ですが、心身が蝕まれます。筋力低下のある高齢者は数日の安静で歩けなくなり、心臓が弱り、認知症となります。手術･投薬治療に平行して、リハビリテーション（リハ）科医師が全身を診察し、それぞれの患者さんに応じた高負荷高頻度のリハ処方をします。リハは心身を改善します。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師などが連携し、骨関節疾患、脳血管障害、神経筋疾患など様々な機能障害に対しても超早期から機能回復に取り組みます。手術患者さんは術前に筋力と体力をつけいただき、術後は体中チューブや、人工呼吸器をつけていてもリハをします。各診療科や部門の垣根がなく、医師やコメディカルとのチーム医療が確立されているのが本院の特徴です。

われわれリハ科の願いは、皆様が元気で健やかに元の生活に戻っていただくことです。

麻酔科

## 超急性期から慢性期まで ー活躍の場が広がる麻酔科ー

教授：川股知之

手術麻酔では、患者さんが安心して手術を受けられるように最新の超音波機器や生理学的モニターを駆使して、年間5400件以上の手術症例の麻酔管理を担当し、周術期医療を支えております。

緩和医療では、緩和ケアチームと緩和ケア病棟を管理し、治療中の患者から終末期の患者まで幅広くがん患者の緩和ケアを行っております。

無痛分娩は、産科と連携して分娩時の痛みの緩和に取り組み、年間に50例程度の分娩症例を管理しております。

ペインクリニックでは、術後痛から慢性痛まで、薬物療法･神経ブロック･神経リハビリなどを用いて安全で質の高い痛み治療に取り組み、年間に3000症例程度の痛み治療を行っております。痛みでお悩みの方は、ペインクリニック外来を受診下さい。

歯科口腔外科

## 顎・口腔領域の総合的な疾患治療を行っています

教授：藤田茂之

歯科口腔外科では、顎口腔領域に生じる全ての疾患を対象とし、その診断・治療を専門的に行っています。具体的な疾患としては、口腔に生じる良性・悪性腫瘍、口内炎などの口腔粘膜疾患、歯の破折・脱臼や顎骨骨折などの外傷性疾患、う蝕や歯周疾患に伴う顎骨周囲の炎症性疾患、顎関節症、埋伏智歯などがあり、その対応範囲は多岐にわたっています。治療には、治療後の咀嚼・嚥下・発音などの機能障害を最小限にしつつ、最良の結果が得られるように、常に最新、最先端の治療を心がけております。

また最近では、手術、化学療法前において口腔ケアを行うことにより、術後感染症・誤嚥性肺炎などの術後合併症、口内炎などの化学療法時の有害事象を予防または軽減できることが分かってきました。当科でも専門的口腔ケアチームを組織し、院内連携のもとに口腔衛生管理を行い、成果を上げております。

今後も医学・医療の発展に微力ながら貢献し、県民の皆様のお役に立てるよう努力を重ねて参りますので、ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

## インフルエンザ感染予防対策にマスクの自動販売機設置

2階正面玄関に2台、1階救急外来受付横に1台設置しました。インフルエンザなどの感染予防対策に是非ご利用ください。なお、マスクは1階売店（24時間営業）でも販売しております。

価格：1箱（2枚入）・・・100円（税込）

**【感染予防対策のために】**

- せきやたんのある時はマスクを着用しましょう。
- せきをしている人にはマスクの着用をお願いしましょう。

2階正面玄関

# 掲示板

## 予約センターからのお知らせ ～診察予約のご案内（初めて受診される方）～

当院の外来受診は、原則として**「予約制」**とさせていただいております。
ご予約は、できるだけかかりつけの医療機関などからFAXでお申し込みください。

### ■医療機関からのご予約

① **かかりつけの医療機関などから当院所定の「予約申込書」**にて患者支援センターにFAX送信してください。

② 20分以内を目途に予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関にFAX返信いたします。

③ 予約当日は、**予約票・紹介状・保険証・診察券（受診歴のある方）**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

**患者支援センター**
FAX番号：073-441-0805
受付時間：月・火・水・金 9:00～19:00
木 9:00～17:00
（土・日・祝日・年末年始を除く）

### ■ご本人からのご予約

① **かかりつけの医療機関などで紹介状**をご用意ください。

※特定の医師による診療をご希望の場合は必ず「○○科○○医師」と明記した紹介状をご用意ください。

② **「当院予約センター」**に直接お電話ください。

③ 予約当日は、**紹介状・保険証・診察券（受診歴のある方）**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

**電話予約センター**
電話番号：073-441-0489
受付時間：月～金 8:30～16:00
（土・日・祝日・年末年始を除く）

※電話だけでなく9:30～17:00まで院内の予約窓口も開設しています。

## 看護師・助産師募集中

※募集等詳細につきましては当大学ホームページをご覧ください。
または下記までお問い合わせください。

和歌山県立医科大学附属病院では看護師・助産師を募集しています。

TEL073-441-0711（事務局総務課）
http://www.wakayama-med.ac.jp
公立大学法人和歌山県立医科大学 和歌山市紀三井寺811-1

## 病院ボランティア募集

みなさまの温かいお力をお待ちしております。

外来または病棟で、患者さんが安心して治療を受けることができるようボランティアの方を募集しています。

※対象：平日に活動してくださる18歳以上の方
詳細はお問い合わせください。

活動時間
外来①：8時50分～11時30分
外来②：11時50分～14時50分
病　棟：病棟と調整の上決定します。
（活動時間はいずれも調整可能です。）

問い合わせ先
和歌山県立医科大学附属病院
代表：073-447-2300
医事課　ボランティア担当

## 患者さんの権利

当院では、受診される皆様が、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

1 個人として尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
2 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
3 十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
4 他の医療者の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります。
5 個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

※当院では、患者さんの安全を守ることを第一に診療を行っておりますが、他の患者さんや職員への暴力・暴言・大声・威嚇などの迷惑行為があった場合は診察をお断りすることや退去を求めることがあります。著しい場合は警察に通報いたしますのでご了承ください。

## 患者さんへのお願い

当院では、さまざま医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

1 適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話しください。
2 医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
3 治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
4 すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
5 当院は教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。


**和歌山県立医科大学附属病院広報誌 まんだらげ**（vol.39）
2017年1月発行　発行／和歌山県立医科大学附属病院　〒641-8510和歌山市紀三井寺811-1
Tel 073-447-2300
ホームページアドレス http://www.wakayama-med.ac.jp/hospital


**＜外来受付時間＞**
・受付時間 午前8時50分～午前11時30分
・再診で予約のある方は指定時間（予約票の記載時間）
・休診日／土曜日・日曜日・祝日・年末年始（12月29日～1月3日）
※診療スケジュールは、ホームページからご覧いただけます。

次号発行は平成29年4月です。